

生物多様性ちば企業ネットワークの歩み

2025年2月26日

千葉県環境生活部自然保護課 生物多様性センター
大島 健夫

企業と生物多様性

全ての企業は、直接的または間接的に生物多様性を利用し、企業活動を行っている。



生物多様性の急速な損失は、企業の存続にかかる問題でもある。企業活動は、生物多様性に多大な影響を与えており、生物多様性の保全には、企業による生物多様性への配慮が不可欠。

現在では、国内外において、多くの企業が生物多様性に关心を持ち、生物多様性の保全と持続可能な利用のため、様々な取組を模索するようになった。

しかし、このような企業活動と生物多様性の関係はいまだ認知度が低く、個々の企業にはノウハウも少ないため、実際の行動にはなかなか結びつきにくい。

生物多様性ちば企業ネットワーク

企業の生物多様性に対する理解の促進や生物多様性の保全に向けた取組を広げるため、2013年に立ち上げ。企業の取組を千葉県と支援メンバーで支援・連携する活動を行っている。

支援メンバーとは、趣旨に賛同する地方公共団体、NPO、教育機関等の団体。



現在、企業メンバーとして27社、支援メンバーとして10団体が参加中。毎年、企業と生物多様性セミナー、および勉強会を開催している。

生物多様性ちば企業ネットワークは 何をしてきたか ①

企業の皆様に、千葉県内の生物多様性に関する情報や企業による取組事例などの情報共有を行っていただくため、これまで26回、企業セミナーを開催した（ただし第22回、第23回は中止。第24回はオンライン開催）。

内容は、それぞれのテーマでの基調講演、各参加メンバーからの事例発表、生物多様性センターからの情報提供。

生物多様性ちば企業ネットワークは 何をしてきたか ①

年・回	テーマ	講演・事例発表
2019・第21回	企業緑地を活用した生物多様性保全	<ul style="list-style-type: none">・企業緑地を活用した取り組みの進め方～事例からみる活動のポイント～ (MS & ADインテリス総研)
2020・第22回 (中止)	食と生物多様性	<ul style="list-style-type: none">・食と生物多様性： 外食企業が仕入れやフィールドを活かした取り組みの事例 (アレフ)
2021・第23回 (中止)	里山バンクと生物多様性～究極のSDGsとは	<ul style="list-style-type: none">・生物多様性保全の主流化とSDGsのエンジン —日本版生物多様性バンク、“里山バンク”の取組— (東京都市大)
2022・第24回 (オンライン開催)	企業SDGsと生物多様性保全	<ul style="list-style-type: none">・企業SDGsにおける生物多様性保全の可能性—経済手法、里山バンク— (東京都市大)
2023・第25回	COP15と企業の関わり	<ul style="list-style-type: none">・30 by 30・OECMを通じた企業としてのネイチャーポジティブへの 関わりについて (日本自然保護協会)
2024・第26回	「自然共生サイト」の認定～活用	<ul style="list-style-type: none">・NEC我孫子事業場での生物多様性保全活動：自然共生サイトの一例として (NEC)

生物多様性ちば企業ネットワークは 何をしてきたか ②

企業の生物多様性に対する理解の促進や生物多様性の保全に向けた取組の促進のため、勉強会として、ビオトープ見学会、里山モニタリング調査、座談会などを開催してきた。

年・回	内容	協力・協働
2019・第1回	里山モニタリング調査（千葉市若葉区）	NPOバランス21
2019・第2回	企業敷地内の池を活用して絶滅危惧種を保全している現場を学ぶ	NEC 手賀沼水生生物研究会
2019・第3回	里山モニタリング調査（千葉市若葉区）	NPOバランス21
2020・第1回	里山モニタリング調査（千葉市若葉区）	NPOバランス21
2020・第2回	里山モニタリング調査（千葉市若葉区）	NPOバランス21
2021・第1回	里山モニタリング調査（千葉市若葉区）	NPOバランス21
2021・第2回	里山モニタリング調査（千葉市若葉区）	NPOバランス21
2022・第1回	里山モニタリング調査（千葉市若葉区）	NPOバランス21
2022・第2回	里山モニタリング調査（千葉市若葉区）	NPOバランス21
2023・第1回	企業敷地内における生物多様性保全活動の見学と連携施策の提案	NEC 手賀沼水生生物研究会
2024・第1回	企業ネットワーク座談会	

里山モニタリング調査（千葉市若葉区谷当町）

- ・千葉県生物多様性センターとNPOバランス21との協働のもと、植生モニタリングを実施した。
- ・かつての薪炭林は10年前後の周期で伐採を繰り返していた。その時に近い状況を作り、適切に人の手を入れ、管理を行うことにより、里山の保全活動が生物多様性にどのように貢献するかを検証した。

2017年11月24日、10m×10mの調査区（コドラー）を3箇所（平坦地、南向き斜面、北向き斜面）に設置。



調査区内の高さ1.3m以上の木本は、種名、位置、高さ、胸高直径を記録。

また、草本及び高さ1.3m未満の木本は、種ごとに調査区内での被度（水平投影面積、%）と最大高を記録。

以降、毎年春と秋に、ちば企業ネットワークの勉強会として、植生のモニタリングを継続した。

上記調査後に低木層以下の樹木を伐採。アズマネザサを刈り取り。





刈り取り直後に爆発的に植物の種数が増加。
様々な希少種も出現した。

種数は3年目までは増加を続け、その後、安定傾向にある。

2023年の勉強会（我孫子市）

- ・NEC我孫子事業場において開催。「NEC我孫子事業場における生物多様性保全活動について」と題して、NEC及び手賀沼水生生物研究会より活動紹介。
- ・実際の保全現場の見学。
- ・生物多様性センターより、生物多様性ちば企業ネットワークにおける連携施策の提案。



駆除された特定外来生物・ブルーギル



2024年の勉強会（千葉県立中央博物館講堂）

- ・「企業と生物多様性座談会～何が大変？みんなはどうしてる？～」と題して座談会を開催。
- ・各企業の生物多様性に関する活動内容紹介、知見の共有、連携の将来について可能性などが話し合われた。
- ・保全活動の目標設定や、生物多様性にかかわる人材の育成、また、そもそも何からスタートすれば良いのか等、様々な話題がのぼった。



今後に向けて

- ・ネットワーク参加団体が相互に連携し、より柔軟に生物多様性の維持に貢献していくような枠組みをつくりたい。
- ・年一回のセミナーを基本に、座学、現場を問わずにいろいろな勉強会を企画してゆきたい。
- ・お配りしたアンケートに是非、様々なご意見、ご要望をお寄せください。今後とも生物多様性ちば企業ネットワークを宜しくお願ひいたします。

ご清聴ありがとうございました。